

学校自慢の「ぼうけんの森」を核にした 地域の自然環境をいかした教育活動の創造



実施担当者 奈良市立鶴舞小学校
校長 信田 和則

1 はじめに

本校運動場北側斜面には、学校自慢の「ぼうけんの森」がある。この「ぼうけんの森」は、本校創立時（今から 54 年前）はただの斜面で木も生えてない荒地であった。その後、教員や児童の手により植林が進んだが、次第に手入れ行き届かなくなり子どもが立ち入ることができない危険な森となってしまった。その森を子どもたちが集い、学習できる森となるように、教員と児童や地域ボランティアの方により整備活動が約 10 年前から始まり、昨年度ふるさと納税制度を活用して、本格的な整備を行った。

この「ぼうけんの森」を使い、理科や生活科の学習を行うことともに、隣接する鶴舞こども園との交流活動などに生かしている。この森を継続的に整備するとともに、学習の森、集いの森として、より活用して地域と協働して新しい教育活動の創造に努めている。

「ぼうけんの森」に自生しているツタに着目し、ツタの樹液から幻の天平の甘味料「あまづらせん」を再現されている奈良女子大学研究員前川佳代先生のご指導により、「あまづらせん」の再現実験を平成 28 年度より実施している。その学習を平成 29 年度は、天平祭りで発表、平成 30 年度には奈良女子大学公開講座で発表した。「ぼうけんの森」と天平時代がツタという植物でつながる学習となっている。

また、地域を流れる秋篠川の川岸に自生している植物「からむし」より繊維を取り出し、手編みで作品を作る取組を昨年度より奈良女子大学研究員前川佳代先生のご指導により始め、3 学期に奈良の伝統産業である「奈良晒」とつなげ、「からむし」の繊維を使った織物が「奈良晒」の原型となったことを学んだ。

このように「ぼうけんの森」や地域の自然環境を生かした教育活動は現在 5 年生を中心におこなっているが、この取組につながる教育活動を全学年でできるように指導計画の再編成し取組んだ。

平成 29 年度より奈良市教育委員会よりコミュニティ・スクールとして指定され、地域の方と協働して新しい教育活動を創造できるよう取り組んだ。平成 29 年度より、花の苗を育て販売したり、育てた花を使い、ドライフラワーにしハーバリウムなどを作成し販売したりする株式会社鶴舞フラワーを児童の希望者と地域の指導者により設立し、地域イベントなどで商品の販売を行った。今年度は、藍や花を低学年で栽培し、それら活用した商品づくりの企画をこう学年が考え、中学年がパッケージデザインを担当し、商品づくりをたてわり班で行うキャリア教育を全校体制で進めた。

2 取組の実際

2-1 「ぼうけんの森」を核にした第5学年の取組

6月に総合的な学習の時間に校区を流れる秋篠川の岸辺に自生している「からむし」の刈り取りをしました。茎だけを残し、一晩水につけておき、翌日に繊維の取り出しを奈良女子大学研究員の前川先生のご指導のもと行った。

「からむし」から取り出した繊維は、麻糸の一種である「苧麻（ちょま）」の原料となる。「苧麻」は昔から奈良晒の原料として重宝されてきた。



「からむし」の観察と刈り取り



「からむし」の繊維取り出し作業

12月に、「からむし」から取り出した繊維を使って手織り体験学習をした。奈良女子大学研究員の前川先生に手織り機の歴史と「からむし」の繊維から奈良晒の原料となる苧麻（ちょま）の糸が作られることを教えていただいた。厚紙でできた手織り道具の縦糸に「からむし」の繊維を編んでいき、コースターを作り、早速、給食の時に牛乳パックの下に敷いて使っていた。

奈良晒の歴史を学習していく中で、江戸時代に武士の正装であった袴に使われていたことや、明治になってその需要がなくなり、蚊帳に転換したこと。その蚊帳も機械化された綿織物にとって代わられたことがわかった。大和木綿の産地であったことからその商品価値を高めるために「藍染め」が盛んであったことともわかり、この苧麻と藍との歴史的なつながりも学習することができた。



「からむし」の繊維を横糸として手織り



「からむし」の繊維を使ったコースター

2-2 たてわり班での商品開発

地域の方と協働して、本校独自のキャリア教育を平成29年度から取り組んでいる。平成29年度・30年度は、全校児童から希望者を募り株式会社「鶴舞フラワー」を立ち上げ、地域のイベン

トや参観日などの機会に花の苗やドライフラワー・ハーバリウムなどを販売した。この活動においては、社員に応募してきた児童と話し合い、会社としての役割分担を決め、商品の仕入れ・原価計算・売価決定・宣伝・当日の販売・売上金計算・利益確定・株式発行・株主優待券の発行などの活動を地域の方のご指導を得ながら行った。この成果を希望者だけでなく全校児童へ広げるために、本年度から1年生から6年生までのたてわり班を活用して、オリジナル商品を開発し販売することとなった。

具体的には5年生・6年生が商品の企画を、3年生・4年生は商品のパッケージづくりを、1年生・2年生は栽培を発達段階に応じて担当した。「藍」を使った商品を企画・販売するプロジェクト「藍」、「花」を素材して使った商品を企画・販売するプロジェクト「花」の2つのチームに分かれて競い合いながら商品開発に励んだ。

この商品化に先立ち、1年生では藍の生葉のたたき染め体験を、2年生では藍の絞り染め体験を地域の方にご指導いただき行った。



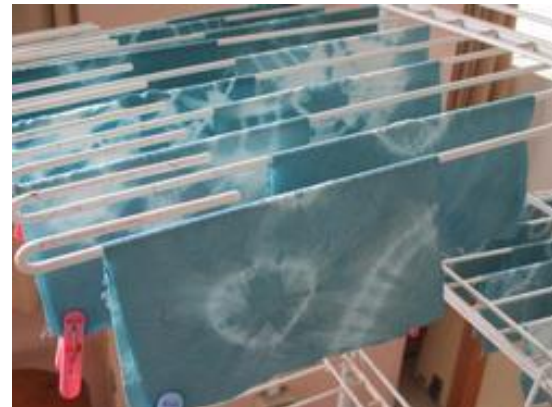
藍の生葉をたたいてでた色素で染める



染まった布は給食のナフキンとして使いました



藍の葉から作った染め液に絞りのある布を染める



絞ったゴムを外して干す



販売会の様子 1



販売会の様子 2

商品として販売するという最終目的があるので、これまでと違った観点から「藍」や「花」の栽培を行うことができただけでなく、商品に仕上げる過程でより植物の特性を学ぶことができた。

出来上がった商品は、2月の参観日に販売し、保護者や地域の皆様にお買い上げいただき、無事に完売することができた。

このように目的をもって植物を栽培すること、商品として販売に耐えるものを栽培することによってこれまで以上に丁寧に水やりをしたり雑草を取り除いたりすることができた。

3 まとめ

地域の方と共に校区の豊かな自然をいかした教育活動を創造することにより、子どもたちは積極的に自然に関わり、自然を守ろうとする意欲を高めることができた。ふるさと鶴舞の意識をもつことや社会とのかかわりをキャリア教育との連携で考えることもできた。このように自然を学ぶことの意味を自分とのかかわりから考えることが本校の特徴的な理科教育・科学教育であることを再確認することができた。中谷医工計測技術振興財団様より助成金をいただき推進することでできたことは、設備の充実だけでなく、外部に本校の取組を発信するいい機会ともなりました。特に成果発表西日本大会では、審査員の皆様から奨励賞に選んでいただき、ポスターセッションに参加した子だけでなく、6年生の担任も子どもたちも大変喜んでいました。



成果発表会西日本大会・ポスター発表



奨励賞をいただきました

謝 辞

中谷医工計測技術振興財団様より助成金をいただき本校の教育活動を推進することでできたことは、設備の充実だけでなく、ユネスコスクール全国大会に5名の教員を派遣することができ、外部に本校の取組を発信するいい機会ともなりました。特に成果発表西日本大会では、審査員の皆様から奨励賞に選んでいただき、ポスターセッションに参加した子だけでなく、6年生の担任も子どもたちも大変喜んでいました。また、助成金の対象校に選んでいただけたこと自体や日経サイエンスに本校の取組を掲載していただけたことなど、地域の方から本校の取組について高く評価していただくきっかけともなりました。コミュニティ・スクールとして地域とともに教育活動を推進している本校にとっては、このような機会をいただき、新しい教育活動を創造できましたこと大変ありがたく感謝申し上げます。

以上